

2001年12月27日

■企業経営予測調査 2001年12月調査結果■

4四半期連続で悪化した神奈川県内中堅・中小企業の業況判断

(株)浜銀総合研究所(社長 遠山悌二郎)では、神奈川県内の中堅・中小企業を中心としたアンケート「企業経営予測調査」の2001年12月調査を実施いたしました。今般、同調査のなかで最も注目度が高いと思われまます業況判断D. Iの集計結果がまとまりましたのでご案内いたします。

[要旨]

神奈川県内中堅・中小企業の2001年12月末時点における業況判断DI(全産業ベース)は▲56となった。前回の9月調査(▲54)に比べて2ポイントの悪化。「悪い」超幅の拡大は3月調査以降4期連続である。さらに3か月先の2002年3月時点のDI値についても▲59と一段の悪化が見込まれている。

今回の業況判断DI値を製造業、非製造業の別に分けてみると、製造業は前回9月調査と同じ▲59で横ばいとなった。また、非製造業は同▲50から同▲54と4ポイント低下し、落ち込み幅が拡大した。

最近の県内景気は、米国を始め欧州やアジア向け輸出の減少などの需要減によって、機械製造業を中心に生産活動が大きく落ち込んだことなどを反映して、企業業績の大幅な悪化がみられる。さらに、企業活動の冷え込みによる雇用や所得環境の悪化を通じて、個人消費も大型小売店販売額の前年比伸び率がこれまでのプラス基調から10月にはマイナスに転じ、今後さらに厳しさを増してきそうである。今回の県内中堅・中小企業の業況判断は、消費関連の商業・サービス業での悪化が進むなど、景気後退の広がりを示唆する結果といえる。

企業経営予測調査 2001年12月実施
四半期別(第122回)結果

対象企業 神奈川県内の中堅・中小企業を中心とした872社(うち製造業345社、非製造業527社)
回収率 424%(回答企業370社 うち製造業174社、非製造業196社)

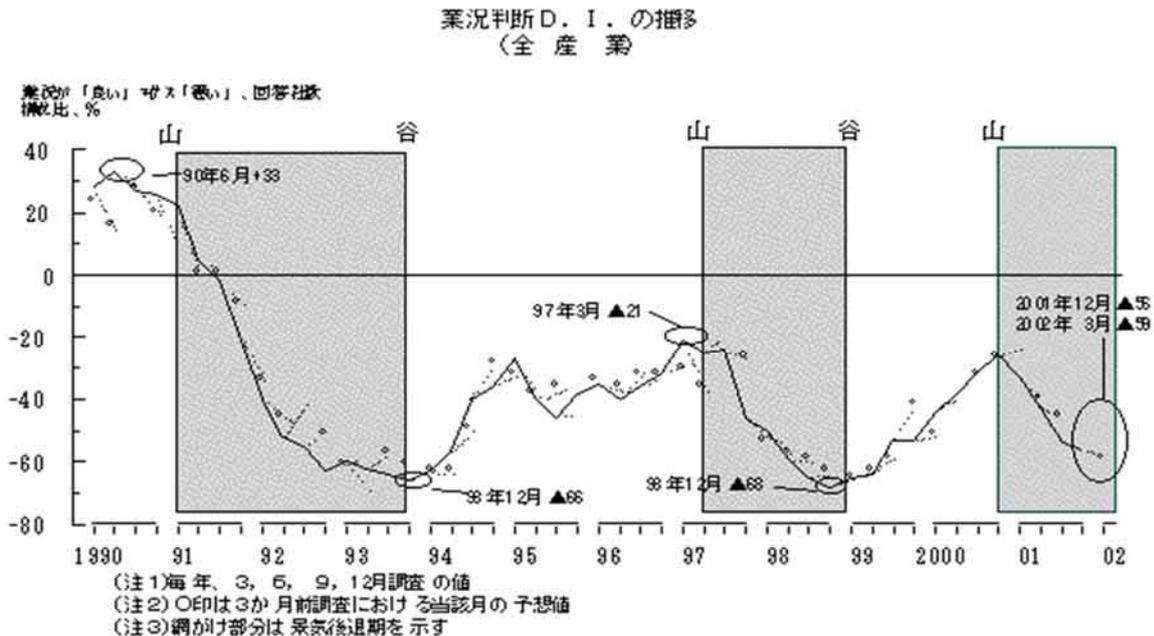
業況判断D.I (2001年12月末)

2001年12月末における神奈川県内中堅・中小企業(全産業)の業況判断DI_(注)は▲56となった。これは前回9月末調査(▲54)に比べて2ポイントの低下である。

製造・非製造の別にもと、製造業の業況判断DIは、前回調査同じ▲59と横ばいであった。鉄鋼・非鉄、金属製品などはマイナス幅が縮小したのに対し、需要の減少を受けて生産が落ち込んでいる輸送機械、電気機械、一般機械など機械製造を中心に「悪い」超幅は一段と拡大した。

一方、非製造業では、建設のほか、コンピュータ関連機器、食料品、生活用雑貨販売を中心とした卸・小売や主にビルメンテナンス業、ホテル業などのサービスでマイナス幅が拡大したことから、前回調査の▲50から今回▲54と4ポイントの悪化となった。

(注)業況判断DI:業況が「良い」マイナス「悪い」の回答社数構成比、%。



[3か月先の見通し]

2002年3月末時点の業況判断DIは、全産業で▲59と2001年12月末実績(▲56)に比べさらに悪化する見通しである。製造業では、輸送機械は改善を見込んでいるものの、電気機械や一般機械は悪化を見込んでいるため、「悪い」超幅は▲61と2001年12月末比2ポイント悪化する。

非製造業では、卸・小売は改善を見込んでいるものの、建設、サービスは悪化予想となっていることから、DI値は▲56と製造業と同じく同12月末比2ポイントマイナス幅が拡大する見通しである。

足下の業況判断と3か月先の見通し
 (業況判断DI:業況が「良い」マイナス「悪い」の回答社数構成比、%)

区分	2001年 6月末	2001年 9月末	2001年 12月末	2002年 3月末 (予想)
全産業	▲ 43	▲ 54	▲ 56 (▲ 56)	▲ 59
製造業	▲ 43	▲ 59	▲ 59 (▲ 61)	▲ 61
電気機械	▲ 51	▲ 59	▲ 64 (▲ 63)	▲ 68
輸送機械	▲ 22	▲ 46	▲ 50 (▲ 42)	▲ 40
一般機械	▲ 30	▲ 65	▲ 67 (▲ 74)	▲ 79
非製造業	▲ 42	▲ 50	▲ 54 (▲ 52)	▲ 56
建設	▲ 52	▲ 51	▲ 56 (▲ 51)	▲ 60
卸・小売	▲ 51	▲ 57	▲ 59 (▲ 59)	▲ 57
サービス	▲ 29	▲ 45	▲ 52 (▲ 47)	▲ 56

(注)カッコ内は2001年9月末調査時点における12月末予想である。

【本件についてのお問い合わせ先は、下記の担当までお願いいたします】

(株)浜銀総合研究所 調査部

八木、守谷

電話 045-225-2375(ダイヤルイン)